

■氏名 田上 未来

■所属先 茨城県立医療大学（学外共同研究員）

■参加した動機

私は、理学療法士として福祉機器の開発事業に係るほか、医療機器ベンチャーでの勤務経験があります。その経験の中で、ニーズの重要性やエンジニアなどの異業種の方との協働が非常に重要だと考えると同時にその課題にも直面していました。そんな時に、東北大学の出江先生にバイオデザインをご紹介いただき興味を持ったのが始まりです。これまでに、いくつかのセミナーに参加しましたが、本プログラムでは、バイオデザインプロセスを一体的に学ぶことと、特に、ニーズの探索のために現場観察へ行けるプログラムが非常に魅力的でした。将来的には、東京都において医療機器ベンチャーでの勤務や起業を目指しており参加することに致しました。



人工股関節置換術（THA）後の患者は、日常生活の中での脱臼リスクを知りたいと思っています。

MID4 ファイナルプレゼン

理学療法士

田上 未来

MID 4で学んだこと

バイオデザインプロセスの難しさと楽しさ

<難しいところ> バイアスのない目線で物事を観察、見聞きし、思考を繰り返すこと

<楽しいところ>

- ✓自分では気づかない視点に気づかされ、新たな視点を発見できる
- ✓型にはまらない自由な思考が許される
- ✓それでいて緻密な分析に基づき根拠が明確である
- ✓自分の視点・思考と他者の視点・思考とが会うことで、自分も他者も少しづつ前に進んでいる実感が得られる

大阪大学大学院 医学研究科 特任准教授

ジャパンバイオデザイン/プログラムダイレクター 八木 雅和 先生、

MID 4 講師の先生方、全ての関係者の皆様に感謝いたします

ニーズ、および達成すべきニーズ視点の要求事項

（課題に困っている人）：人工股関節置換術後に脱臼した人にとって

（創出する価値）：人工股関節の再脱臼を防ぐために

（問題解決のために起こす変化）：

日常生活動作中に脱臼の危険がある動作をとらないようにする方法

達成すべきニーズ視点での要求事項(Must Have)	
【有効性・効果】	・股関節脱臼を許容する 屈曲角度（80度）を超える肢位を80%減らす
【安全性・侵襲性】	・非侵襲
【利便性・簡易性・可搬性】	・持ち運べる ・ADLに大きな支障をきたさない
【コスト】	・ヒッププロテクターの価格と同等